教育振興運動事業

自治体名

岩手県九戸村

学校数

小学校　5校　中学校　1校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

当村は、内陸北部に位置しており、震災による直接の被害はなかったものの、宮城県での被災により2名の村民が犠牲となった。また、原発事故に伴う風評被害により、地域産業についての影響が見られた。　仮設住宅なし

九戸村子ども会リーダー研修会

取組概要

実施形態（該当に○）	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	（連携している団体等・大学の名称）
	○			
実施主体・場所等	**コーディネーター数**	**ボランティア延べ人数**	**年間実施日数（回数）**	**活動場所**
			1	村内各、小中学校・保育園・高等学校

活動内容

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
	○	○			
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
家庭教育・保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
地域課題に応じた学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他

主会場　岩手県野田村

(1)研修(現地視察：愛宕神社～生涯学習センター周辺～野田港～防波堤跡)

講師　NPO 法人　チーム北リアス　共同代表　河村　信治　氏　永田　素彦　氏

(2)昼食(泉沢地区仮設住宅において、九戸村山友会の炊き出しを行い、住居者への配布・昼食を行った。)

(3)研修(まとめ　会場：野田村総合センター)

講師　県北教育事務所　主任社会教育主事　小室　好司　氏　社会教育主事　山下　一幸　氏

取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

・九戸村自体、震災による被害はなく、そのために「震災記憶の風化」が課題となっている。この課題を解決するにあたり、昨年度から「復興・防災教育」の事業を行っていた「九戸村子ども会育成会連絡協議会」を中心に、事業展開を進めていくことを検討していた。

◇住民等からの要望・必要な取組

・被災地の復興・発展を支える人材の育成を図ること。

・リーダー研修会の趣旨である「リーダー性」を養うこと。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担（ⅰ関係する部分　ⅱ5 者の連携）

・九戸村子ども会育成会連絡協議会（ⅰ全体　ⅱ親）

・チーム北リアス（ⅰ午前の研修部分　ⅱ地域）

・県北教育事務所（ⅰ午後の研修部分　ⅱ行政）

・九戸村山友会（ⅰ昼食部分　ⅱ地域）

※チーム北リアス：東日本大震災で被害を受けた岩手県の北三陸地域の復興を長期的に支援している団体

◇取組の充実や課題解決のための工夫

・実際に被災地の野田村に赴き、現在の復興状況などを見る事業を行うとともに、「子どもたちは被災地の人たちに対し何ができるか」を考える事業を開催する。

①『チーム北リアス』の方と、被災した現場と現在復興作業が進められている現場を周り、説明を受ける。

②仮設住宅入居者への昼食の炊き出しを実施。その際、野田村で炊き出し活動を行っている「九戸村山友会」に協力を依頼し、子どもたちが入居者への配膳などを行えるようにする。

③県北教育事務所の社会教育主事が被災の現状の説明とワークショップを行う。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

・子どもたちは震災・復興の現場を見て多くのことを感じていた。また、被害の少ない地域と被災地との交流を図ることで、「つながり」を保ち続けることがいかに大事かを考えさせる事業となった。

・教育振興運動の「5者の連携」を進めるため、各小学校で成果物を発表する場を設けた。また、村民にも発信するためにも、11 月に九戸村で行われた「産業・芸術文化まつり」で、発表資料を展示した。

◇課題や今後の展望

①「震災記憶の風化」を食い止めるための効果的な事業の展開の工夫と改善

②研修の中に『被災による課題』を組み込む方法の検討

③「復興・防災教育」と「教育振興運動」との結びつきの強化